



第12期 2022年度
報告書

(2022年4月1日～2023年3月31日)



Providing trusted technology with sincere commitment

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

ここに、2022年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の事業の概況をご報告申し上げます。

2023年6月

代表取締役社長 **北達 伊佐雄**



2022年度の経営成績は、売上高は20,145百万円(前期比997百万円(5.2%)の増収)となり、営業利益は95百万円(前期比127百万円(57.1%)の減益)、経常利益は395百万円(前期比190百万円(92.7%)の増益)、親会社株主に帰属する当期純利益は425百万円(前期比9百万円(2.1%)の減益)となりました。

コロナ禍に加え、建設資材、電子部品・部材の長納期化や価格高騰の影響を大きく受けた一年であり、売上高は前期比増収となったものの、営業利益では前期比減益となりました。経常利益は、政策投資株式の配当が予想を大きく上回ったこと等から前期比増益となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、政策投資株式の一部を売却したことに伴い投資有価証券売却益458百万円を特別利益に計上したものの、連結子会社であるハピネスデンキ株式会社ののれんの一部について減損損失280百万円を特別損失に計上したため、前期比若干の減益となりました。

また、「新サノヤスグループ 中期経営計画2021」の2年目にあたる2022年度は、新型コロナウイルス感染症やロシア・ウクライナ情勢の影響を勘案し、中期経営計画の売上高230億円、経常利益10億円を修正し、売上高210億円、営業利益5億円、経常利益5億円、親会社株主に帰属する当期純利益は3億円と予想しましたが、上記の通り予想を上回る大きな影響を受けたことから、親会社株主に帰属する当期純利益以外は計画未達に終わりました。

セグメント別にご説明いたしますと、次の通りです。

製造業向け事業では、乳化装置・攪拌機製造の中国現地法人である美之賀機械(無錫)有限公司において、大型の設備投資案件がなかったことに加えゼロコロナ政策の影響を受けたこと、ドライブシャフトの製造が海外向け農業機械器具生産の停滞の影響を受けたこと、各種産業機械部品の製造において半導体関連の売上が減少に転じたこと等により減収となりました。営業利益は、個別採算の改善に努めましたが減益となりました。

建設業向け事業では、電子部品の不足から、高層ビル用の動力制御盤等の電気機械器具製造において出荷遅延が発生している他、機械式駐車場装置のリニューアル・修繕においても工事の遅延が生じましたが、建設用エレベーターの製造・レンタルや空調衛生給排水設備装置は堅調を維持しており、売上高は

前期比若干の増収となりました。営業利益は、特に動力制御盤製造工場の稼働率が低下したことを主因に減益となりました。

レジャー事業では、新型コロナウイルス第7波・第8波による感染者数の高止まりが見られたものの、行動制限が段階的に緩和されたため、国内利用者の客足が戻り遊園地運営の売上が増加しました。また、客足の戻った遊園地からの機械投資や部品・修理ニーズを捕捉し、大幅増収・増益となりました。なお、サノヤス・ライド株式会社が運営を行っておりましたパレットタウン大観覧車(東京都江東区)は、2022年8月31日をもって営業を終了いたしました。長年にわたるご愛顧に心より感謝を申し上げます。

中期経営計画では既存事業の成長に加え、M&Aによる体質強化と規模の拡大を目指しており、2022年8月1日付で配電盤・分電盤等のメーカーである松栄電機株式会社及びその子会社である松栄電気システムコントロール株式会社をグループに迎えました。

また、ESGを重視した経営の具体的取り組みの一つとして、サノヤス精密工業株式会社の本社工場(兵庫県三田市)に自家消費型の太陽光発電設備を設置したほか、グループの全役職員を対象にSDGsに関するeラーニングを実施しました。さらに、サノヤステクノサポート株式会社内に「技術人材開発センター」を設置し、人材育成に一層注力しております。

2023年度の連結業績予想は、引き続きコロナ禍による部品・部材の不足や原材料価格の上昇が継続するとみており、売上高230億円、営業利益5億円、経常利益5億円、親会社株主に帰属する当期純利益3億円を見込んでいます。中期経営計画で示した数字を下回ることになりますが、M&A等の成長戦略を加速させ、最終年度の2024年度の計画達成に向け邁進してまいります。

『「確かな技術にまごころこめて」～人と技術を磨き、新たな顧客価値を創出する～』の経営理念のもと、株主の皆様、お客様をはじめとする全てのステークホルダーのご期待に応えられるグッドカンパニーを目指してまいります。株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

**TOPICS
01**
みづほ工業株式会社 新第二工場竣工

2022年12月12日、みづほ工業株式会社の新第二工場が竣工いたしました。

同社は、乳化・攪拌装置事業（真空乳化装置・攪拌装置など）、水処理事業（純水装置・排水処理装置など）、エンジニアリング事業（大型タンク設備・鋼構造物など）の3つの事業を手掛けております。新工場は、同社本社事務所向かい（旧テクニカルセンター跡地）に、乳化・攪拌装置事業の工場兼倉庫として建てられました。従来は工場兼倉庫として他社の物件を賃借していましたが、拠点の集約化を行いました。また、新工場には、組立後に顧客が立会い検査を行うための設備を新たに置くことで、製造・検査工程の効率化を図っています。

同社では、今回の新工場だけでなく、2016年11月に本社工場を、2021年8月には新テクニカルセンターを建替えており、生産、研究開発及び顧客のニーズに寄り添った提案の能力向上のための設備投資を行ってまいりました。向上した能力を最大限に発揮し、これからも「真心こめたものづくり」で社会に貢献しながら、更なる発展を目指します。



新第二工場

**TOPICS
02**
松栄電機株式会社及び松栄電気システムコントロール株式会社のグループ入り

2022年8月1日、当社は松栄電機株式会社の全発行済株式を取得し、同社及びその子会社である松栄電気システムコントロール株式会社がサノヤスグループに加わりました。

両社は、松栄電機株式会社が販売を、松栄電気システムコントロール株式会社が設計・製造を担って、通信インフラ向けの配電盤・分電盤の製造を手掛けています。情報・通信機器分野への豊富な知見を活かし、携帯電話基地局やデータセンターの配電盤・分電盤を中心に、設計から製造までオーダーメイドによる一貫生産で柔軟に対応しているのが特徴です。そのため、顧客の要望にきめ細かく対応でき、汎用品メーカーでは対応できない領域の製品に特化することで、競合他社に対する優位性を保っています。また、業務管理をシステム化し、大手サテライトオフィスと契約して営業活動の合理化を図るなど、柔軟な働き方を進めている会社でもあります。

更に、当社グループ会社であるハピネスデンキ株式会社とは、配電盤・分電盤の製造におけるシナジー効果もあり、配電盤・分電盤事業の強化により、建設業向けセグメントの中長期的な成長と収益力の強化を目指しています。

松栄電機株式会社及び松栄電気システムコントロール株式会社の概要

会社名	松栄電機株式会社 (Shouei Electric Corporation)	松栄電気システムコントロール株式会社 (Shouei Electric System Control Corporation)
事業内容	通信インフラ向け配電盤・分電盤等の製造・販売	
従業員数	4名(2023年3月31日現在)	28名(2023年3月31日現在)
事業所	本社 東京都大田区	本社・新庄工場 山形県新庄市 南陽工場 山形県南陽市



キュービクル(配電盤)

**TOPICS
03**
東武動物公園「レジーナII」のリニューアル

2023年3月18日、東武動物公園（埼玉県宮代町）の水上木製コースター「レジーナ」が、サノヤス・ライド株式会社施工の「レジーナII（ドゥーエ）」としてリニューアルオープンしました。

レジーナは、2000年3月18日に世界初の水上木製コースターとしてオープンし、東武動物公園の人気アトラクションとして多くのお客様に親しまれてきました。車両の経年劣化のため2019年に営業を終了していましたが、木組みの美しい構造体は同園のシンボルであり、復活を望む多くの声があったことを受け、新車両の導入、走路の一部改修、制御システムやブレーキの変更を実施し、2000年のオープンと同じ3月18日にリニューアルオープンしました。

今回のリニューアルにあたって同社ではアメリカ Great Coasters International Inc. と協力し、木製コースターが持つ楽しさを維持したまま安全性をより一層強化しました。

今後も、皆様にご満足いただける遊戯機械を提供してまいります。



レジーナII



サノヤス精密工業株式会社 太陽光発電設備稼働

サノヤス精密工業株式会社では、兵庫県三田市にある本社工場の屋根に、自家消費型太陽光パネルを設置し、2023年4月1日より稼働が開始されました。

同社では、環境に配慮した経営の一環として、2014年3月から兵庫県多可郡多可町にて売電用の太陽光発電設備を稼働させておりますが、SDGs及びESG経営への更なる取り組みの一つとして、新たに本社工場での太陽光発電を開始しました。

本社工場の太陽光発電設備の発電容量は408kWhであり、天候や時間帯によっては工場使用電力量の100%を太陽光発電でまかなうことが可能です。本社工場では今後、年間工場使用電力量の約18%を太陽光発電でまかなう予定であり、年間の発電量は312千kWh、CO₂に換算すると110tの削減効果を見込んでいます。



技術人財開発センター設立

サノヤステクノサポート株式会社に、グループ全体の技術（製造、開発・技術）系人財の育成についての専門部署として、「技術人財開発センター」を設立しました。

サノヤスグループでは、サステナビリティ推進活動におけるマテリアリティのひとつとして、「価値を創造する人財の採用、育成、活躍促進」を掲げています。その実現のため、技術人財開発センターで技術系人財の育成強化を目的とした階層別研修等の企画・立案及び運営等を行い、技術系人財の育成及び活躍を促進します。

また、グループの中期経営計画における重点取組として「技術オリエンテッド」を標榜しており、そのための取り組みの一環としても、技術人財開発センターで活動の推進を図ります。



SDGsに関するeラーニング実施

サノヤスグループでは、ESG経営に係る取り組みの一つとして、全役職員を対象とした、SDGsに関するeラーニングを行いました。

2021年には一部の中堅・若手社員を対象として外部講師を招いての「SDGs研修」を行いましたが、今回のeラーニングはそれに続いて、グループ全体でのSDGsに対する理解を深め、具体的な取り組みにつなげるための施策として実施しました。eラーニングでは、SDGsについての基礎知識や、SDGsに関する社会の潮流、ビジネスとの関わり等を学びました。

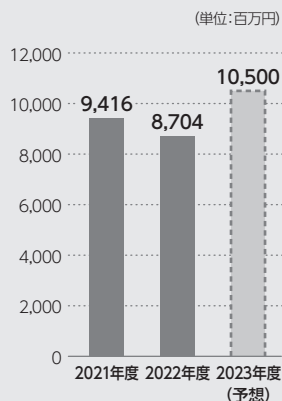
今回のeラーニングにより、役職員のSDGsについての理解促進及び意識向上を図ることができたとともに、併せて実施されたアンケートを通じて、会社としても役職員のSDGsへの思いや考え方等への理解を深めました。



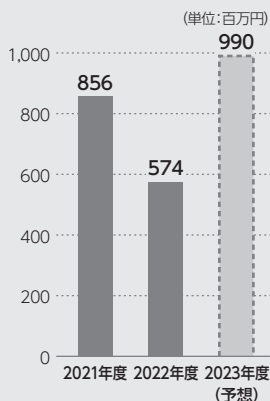
セグメント概況

製造業向け事業

■売上高



■営業利益

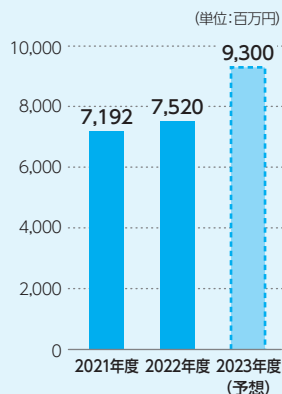


2022年度 **売上高** 87億4百万円

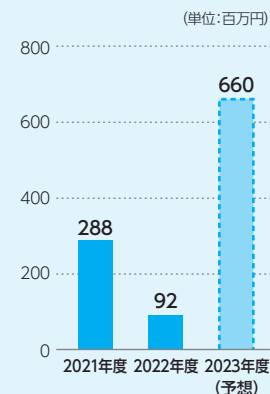
製造業向けセグメントにおいては、主力の化粧品業界では設備投資の動きが出ているものの、建設資材の長納期化や価格高騰の影響を受けお客様の工場建設が遅れたため、前期並みの売上となった一方、中国現地法人の美之賀機械(無錫)有限公司において、大型の設備投資案件がなかったことに加え、ゼロコロナ政策の影響を受けたことから減収となりました。また、ドライブシャフトの製造が海外生産停滞の影響を受けた他、各種産業機械部品の製造において半導体関連の売上が減少に転じたため、製造業向けセグメントは減収となり、営業利益も減益となりました。この結果、売上高は8,704百万円(前期比712百万円の減収)、営業利益は574百万円(前期比281百万円の減益)、受注高は8,844百万円(前期比863百万円の減少)、受注残高は5,272百万円(前期比1,060百万円の増加)となりました。

建設業向け事業

■売上高



■営業利益

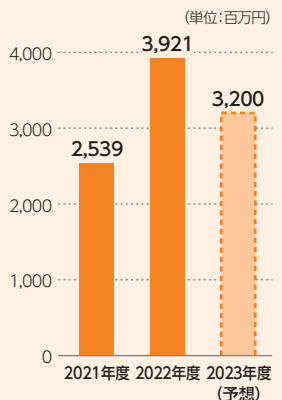


2022年度 **売上高** 75億20百万円

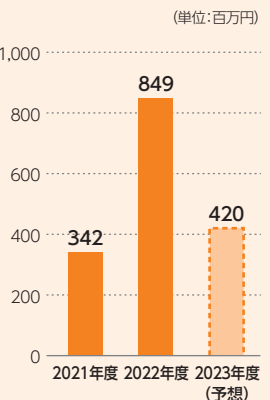
建設業向けセグメントにおいては、電子部品・部材の調達の長納期化や価格の上昇が継続しています。特に、高層ビル用の動力制御盤を主体とする電気機械器具製造及び電気工事において、インバーター等の電子部品の不足から出荷遅延が発生している他、機械式駐車場装置のリニューアル・修繕において工事の遅延が発生しています。一方、建設用エレベーターの製造・レンタルや空調衛生給排水設備装置は堅調を維持しました。その結果、売上高は前期比若干の増収となりましたが、営業利益は特に動力制御盤製造工場の稼働率が低下したことを主因に減益となりました。この結果、売上高は7,520百万円(前期比327百万円の増収)、営業利益は92百万円(前期比195百万円の減益)、受注高は9,566百万円(前期比3,088百万円の増加)、受注残高は7,484百万円(前期比3,150百万円の増加)となりました。

レジャー事業

■売上高



■営業利益



2022年度 **売上高** 39億21百万円

レジャーセグメントにおいては、2021年4月から9月にかけてコロナ禍における緊急事態宣言やまん延防止等重点措置による遊園地営業の休止・自粛要請や、水際対策によるインバウンド客の消失等の影響を大きく受けました。当期は、新型コロナウイルス第7波・第8波による感染者数の高止まりが見られたものの、行動制限の緩和が段階的に行われ、国内利用客が戻り遊園地運営の売上が増加しました。また、客足の戻った遊園地からの機械投資や部品・修理ニーズを捕捉し、大幅増収・増益となりました。この結果、売上高は3,921百万円(前期比1,381百万円の増収)、営業利益は849百万円(前期比506百万円の増益)、受注高は1,280百万円(前期比595百万円の減少)、受注残高は445百万円(前期比730百万円の減少)となりました。

※当期より、「産業向け」を「製造業向け」に名称変更しました。



中期経営計画進捗報告

2022年度の実績

(単位:億円)

	2022年度 計画	2022年度 実績
連結売上高	210	201
製造業向け	98	87
建設業向け	83	75
レジャー	29	39
連結経常利益	5	3
連結経常利益率	2.4%	2.0%
ROE	3.8%	5.4%

2022年度の経営成績は、特に建設業向けセグメントにおいて、電子部品・部材の不足から出荷遅延や工事の遅延が発生したこと等により、連結売上高、経常利益は当初予想を下回りました。一方で、親会社株主に帰属する当期純利益において、政策投資株式の一部売却による投資有価証券売却益があったこと等により、ROEは当初予想を上回りました。

重点取組の取組状況

「技術オリエンテッド」の重点取組

製品・工法の革新と技術体制再構築	<p>新規製品開発の進展</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新型卓上試験機・研究用攪拌装置の開発(みづほ工業) ● 工事用エレベーターの制御方式最適化(サノヤス・エンジニアリング) ● 小型監視盤の開発/汎用ユニットを使ったシステム開発(ハピネスデンキ)
科学的ものづくりへの転換	CAE(Computer Aided Engineering)の設計段階での活用により、設計効率化・設計期間短縮を推進
DX活用等による営業・サービスの革新	CRM(Customer Relationship Management)ツールの導入・AIを利用したデータ分析ツールの導入による営業力強化、工事報告書作成のタブレット化等による業務効率化を推進

「ハイサイクル経営」の重点取組

グループ一体運営によるハイサイクル経営	開発、製造、営業・サービスの各分野ごとに、グループ会社の垣根を超えた会議体である「職能会議」により、人材育成・営業効率化など共通課題を討議、解決策を検討
「多角化&中規模事業化」戦略の加速	<p>生産規模拡大に向けた設備投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 甲府工場の大規模改修・金属加工機械の更新(サノヤス精密工業) ● 第二工場の完成(みづほ工業) <p>電気盤製造事業の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 松栄電機、松栄電気システムコントロールのM&A
グループ経営資源のフル活用と人材育成の加速	基幹システムのグループ会社導入を推進し、経理業務を効率化、技術人材開発センターを設立し、グループ全体で技術系人材の育成を推進

中期経営計画2021

中期経営計画計数目標

① 2024年度に

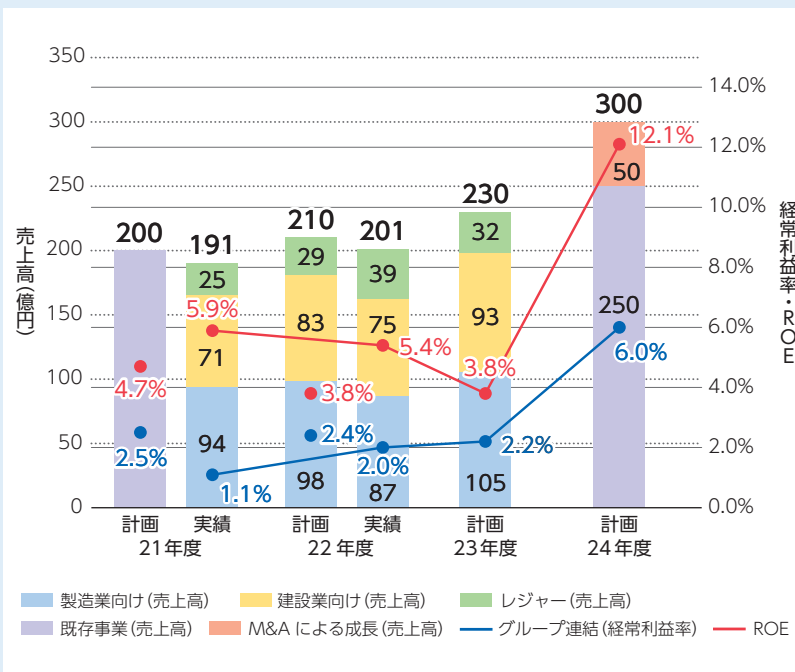
売上高300億円

経常利益率6%

ROE10%

② 2021年度から

配当性向30%以上(最低5円配当)



*ROE: Return On Equity(自己資本利益率)

連結貸借対照表 (要旨)

科目	金額 (単位: 百万円)	
	2021年度末	2022年度末
資産の部		
流動資産	11,508	11,807
固定資産	13,919	13,895
有形固定資産	7,793	8,292
無形固定資産	1,081	1,050
投資その他の資産	5,044	4,552
資産合計	25,428	25,702
負債の部		
流動負債	8,573	10,395
固定負債	8,983	7,296
負債合計	17,557	17,691
純資産の部		
株主資本	5,818	6,122
その他の包括利益累計額	1,965	1,812
新株予約権	86	75
純資産合計	7,871	8,010
負債及び純資産合計	25,428	25,702

連結損益計算書 (要旨)

科目	金額 (単位: 百万円)	
	2021年度	2022年度
① 売上高	19,148	20,145
売上総利益	4,659	4,900
営業利益	222	95
経常利益	205	395
税金等調整前当期純利益	227	466
当期純利益	434	425
② 親会社株主に帰属する当期純利益	434	425

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

科目	金額 (単位: 百万円)	
	2021年度	2022年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	284	△ 534
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,189	△ 933
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,205	△ 597
現金及び現金同等物に係る換算差額	34	18
③ 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 2,076	△ 2,046
現金及び現金同等物の期首残高	5,452	3,376
現金及び現金同等物の期末残高	3,376	1,329

ポイント

① 売上高

資機材の長納期化の影響を受けましたが、コロナ禍の沈静化によりレジャー部門が好調であり、前期比997百万円の増収となりました。

② 親会社株主に帰属する当期純利益

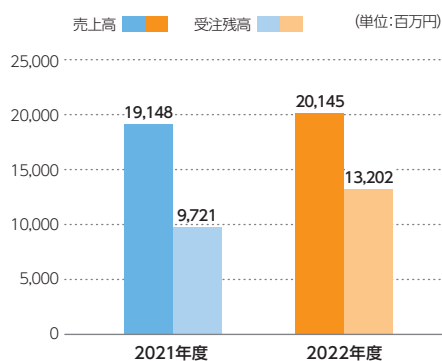
減損損失を384百万円計上する一方で、政策投資株式の一部売却による投資有価証券売却益458百万円を計上した結果によるものです。

③ 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)

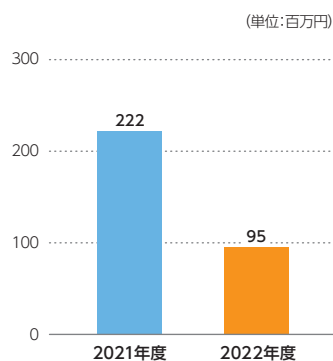
運転資金の増加、有利子負債の減少、設備投資等により、2,046百万円減少しました。

連結財務ハイライト

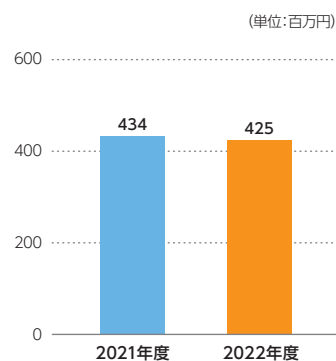
売上高・受注残高



営業利益



親会社株主に帰属する当期純利益



第12期定時株主総会決議ご通知

6月23日開催の当社第12期定時株主総会において、下記のとおり報告並びに決議されましたので、ご通知申し上げます。

報告事項

- 第12期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
- 第12期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)計算書類報告の件
本件は、上記の内容を報告いたしました。

決議事項

- 第1号議案 剰余金の処分の件
本件は、原案どおり承認可決され、期末配当は1株につき金5円と決定いたしました。

- 第2号議案 取締役(監査等委員である取締役を除く。)7名選任の件
本件は、原案どおり上田孝、北達伊佐雄、大門淳、花田恵二、森薫生、高橋健二、副島寿香の7氏が選任され、それぞれ就任いたしました。
- 第3号議案 監査等委員である取締役1名選任の件
本件は、原案どおり山廣隆文氏が選任され、就任いたしました。
- 第4号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件
本件は、原案どおり副島寿香氏が選任されました。

期末配当金のお支払について

第12期期末配当金は、同封の「配当金領収証」により、払渡期間内(2023年6月26日から2023年7月31日まで)に最寄りのゆうちょ銀行全国本支店及び出張所並びに郵便局(銀行代理業者)でお受け取り下さい。
また、振込先をご指定の方には、「配当金計算書・配当金のお振込先について」を同封いたしましたのでご確認ください。

会社情報

経営理念

「確かな技術にまごころこめて」

会社概要(2023年3月31日現在)

商号	サノヤスホールディングス株式会社
設立	2011年10月3日
資本金	2,603百万円
従業員	従業員数 52名 連結ベース 932名(臨時従業員187名を除く) 平均年齢 42.0歳
本社	〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号

株式情報(2023年3月31日現在)

株式の状況	発行可能株式総数	120,000,000株
	発行済株式の総数	33,473,786株
	株主数	14,315名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
サノヤス共栄会	2,237,900	6.69
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,807,000	5.41
株式会社三井住友銀行	1,425,000	4.26
ストラクス株式会社	1,402,000	4.19
三井住友海上火災保険株式会社	1,123,000	3.36
住友不動産株式会社	1,120,000	3.35
三井住友信託銀行株式会社	650,000	1.94
石田眞信	649,700	1.94
株式会社タクマ	534,000	1.60
株式会社IHI原動機	472,200	1.41

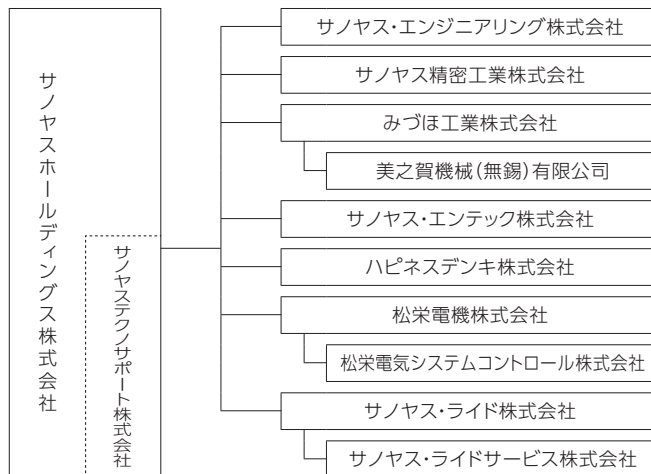
(注) 持株比率は、自己株式(47,215株)を控除して計算しております。

役員一覧

代表取締役会長	上田 孝	上席執行役員	西山 昌宏
代表取締役社長	北達 伊佐雄	上席執行役員	山本 伊佐雄
取締役 常務執行役員	大門 淳	上席執行役員	田中 啓史
取締役 執行役員	花田 恵二	上席執行役員	浅尾 洋光
取締役	森 薫生*	上席執行役員	北川 治
取締役	高橋 健二*	上席執行役員	長松 芳男
取締役	副島 寿香*	執行役員	坂根 誠
取締役 (常勤監査等委員)	松田 武郎	執行役員	田中 智
取締役 (監査等委員)	山田 茂善*	執行役員	中西 康之
取締役 (監査等委員)	山廣 隆文*	執行役員	岩佐 久徳
		執行役員	田代 昌利

*は社外役員を表します。

サノヤスグループ一覧



サノヤスホールディングス株式会社

〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号 TEL. (06) 4803-6161 (代)

